

様式第 15 号（第 20 条関係）

平成 30 年 3 月 12 日

熊本市長 大西 一史 様

郵便番号

住所

団体名 特定非営利活動法人熊本技術士の会

代表者 職名 理事長 氏名 青山 次則 印

熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

平成 29 年 12 月 28 日付け指令（地活）第 102 号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交付変更決定を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第 20 条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

坪井川遊水地の減災対策に資する有効利活用事業

2 助成事業の実施期間

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 4 日

3 助成事業の内容

坪井川遊水地の減災対策に資する有効利活用のため芝生広場の整備と地域住民や市民への情報発信としてのウォーキング大会の実施を支援

4 事業の成果

計画どおり芝生広場を整備し、地域の住民による維持管理や、遊水地を利活用する具体的行動が実施できた。

5 助成事業の実施状況

（1）事業収支決算書（様式第 16 号）

（2）事業の経過又は成果を証する書類等

（3）その他参考となる資料

別紙（１）

事業報告書

実施年度	平成２９年度
事業名	坪井川遊水地の減災対策に資する有効利活用事業
事業期間	平成２９年 ４月 １日 ～ 平成３０年 ３月 ４日
事業の目的	坪井川は熊本市の中心部を流下する河川であり、洪水防止機能を確保するために上流部に遊水地を設けてある。この遊水地を災害に対し減災機能を維持するためには、繁茂する雑草など除去するなど維持が必要だが、多額の費用もかかる。このため、市民に開放して有効利活用できるように、一部をシンボルとなる芝生広場として整備する。
具体的な事業内容	遊水地は、広大な面積であり、低地部の水辺ではヨシ・アシなどの湿地植物が繁茂し、やや高い部分も雑草の繁殖が恒常化している。 このため、平成２８年度から右岸上流の一部５００㎡を除草整地し、シンボルとなる２５０㎡を芝生緑地として整備し、市民に開放した多目的拠点広場として有効利活用を始めており、今後芝生面積を２００㎡追加拡大整備して、さらなる利活用を推進した。 具体的な施工に際しては、２名の専門技術者に依頼し、野芝（４２０円／㎡）目土などの資材を購入し、芝張作業は、地域ボランティアも多数参加して実施した。 また、遊水地の利活用を募集する一環として、３月４日にウォーキング大会を開催することを支援し、一般市民に事前広報を行い、当日は周辺４学校自治会と協力して、スタート地点で２００部のチラシを配布し、遊水地の説明を行い、有効利活用の啓発と、今後の維持管理や活用の方向を検討するため参加者へのアンケートを実施した。アンケート ７１通の回答 参加者 高平台２９名、壺川３３名、黒髪２７名、清水２９名 ４校区以外の参加者２５名 計１４３名
実施場所	坪井川遊水地内の熊本市北区高平地域 整地５００㎡（芝張り２５０㎡）及び、壺川校区、黒髪校区、清水校区や広く一般にも啓発活動を行った。
事業の効果 公益性	地域の住民の方や広く市民の方に、ウォーキングなどの野外活動を支援した中で、遊水地が坪井川の洪水減災施設であることの理解を促す効果があった。
次年度以降 の事業展望	整備した区域は小学生や地域の方に利用されており、今後は、広く市民の方にも利用して頂くよう、啓発していき、維持管理はボランティア活動で努めていく。
事業への 思い	広大な遊水地の有効利活用の一環とともに、減災施設であることも周知を行い、今回整備した芝生広場の利用や、遊水地の利活用を通じて、熊本市が自然災害に対応できる都市になるよう、情報発信の拠点としていきたい。

様式第16号 (第20条関係)

事業収支決算書 (29年4月 ~30年3月)

項 目		金 額 (円)	内 訳
収 入	自己資金	76,053 円	会費 事業収益 その他 76,053 円
	市民公益活動支援助成金	140,000 円	当該事業に対する助成希望額
	その他の補助金・助成金		
	寄附金・協賛金		
	その他		
	計	216,053 円	
支 出	助成対象経費	人件費	44,453 円 運転手1名+普通作業員1名
		報償費	
		役務費	
		使用料・賃借料	
		事務費	17,700 円 チラシ作製代、印刷代
		旅費	
		委託費	36,288 円 整地芝張、運搬費
		その他	117,612 円 材料代 (野芝、目土)
		小計	216,053 円
	助成対象外経費	事務費	
		小計	
	計	216,053 円	